【福島地域】

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

●未利用水産資源の利活用

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		
地域 MV における取組の位置付け	水産物の付加価値向上と供給体制	取組場所
現状における取組実施の背景	・当町の全体の６割を占める「昆布養殖漁業」で、春先の間引き作業で生じる昆布は、一部加工用として商品化されているものの、大部分は利用されておらず、町としても利活用を模索していた。 ・昆布漁業者も、間引き作業により収入を得ることはなく、経費のみが生じることはやむを得ないものと認識していた。 ・全国展開している総合惣菜メーカーは、これまで農産物を中心とした商品展開であったが、当町昆布の質の良さに感銘を受け、商品化を計画。 ・イカ、マグロ漁業者は、不漁や漁獲規制により漁家経営に苦慮している。	
取組により期待する効果	・未利用資源の利活用　　・漁業者の収入増 ・地域雇用の場の確保　　・漁業多角的経営の確立	
(2) 取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	【取組内容】 ●惣菜メーカー～原料コスト減　●福島吉岡漁協～漁業者の収入増 ●福島町～未利用資源の利活用 【方法】 間引き昆布の生出荷、異魚種への着業 【手順】 福島吉岡漁協(漁業者)：生昆布出荷→惣菜メーカー(地元法人)：乾燥加工 【実施体制】 ●三者共同合意締結　・惣菜メーカー　・福島吉岡漁協　・福島町	
(3) 効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	・未利用資源の利活用が図られ、漁業者のこれまでの経費だけの作業に収入が加わり、漁家経営及び漁協経営の一助となった。 ・メーカーが現地に法人設立し、工場整備したことで、雇用の場が生まれた。 ・漁船漁業者の多角的経営試験として生昆布漁業への参画による漁家経営の一助となり、また継続的な着業となった。	
反省点	・漁業者の出荷はまだまだ可能。ただ、乾燥施設の拡充が必須であるが、労働者確保に苦慮している状況であり、足踏みの現状である。	
(4) 取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	・作業効率の向上（必要な人員の確保→他業種との人員連携など） ・乾燥施設の拡充	
取組の実施に必要なもの	・設備投資のための資金が必要 ・乾燥加工に従事する人力が必要 ・生昆布及び製品昆布保管のためのストック施設	

関連資料

【取組の様子】

（メーカーホームページより）

●陸上養殖システムを活用した産品づくり

（1）水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		
地域 MV における取組の位置付け	新たな産品づくりへの挑戦	取組場所
現状における取組実施の背景	・当町は漁業が主幹産業であり、ウニ・アワビなど良質な水産物はあるものの、通年安定して供給できるものがなく、「食」の提供において観光客を呼び込むことができない状況にある。	
取組により期待する効果	・新たな特産品の創出 ・産業の創出 ・雇用の場の創出 ・地域の活性化	
（2）取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	【取組内容】 陸上養殖の活用による通年出荷体制の構築、特産品創出 【方法】 当町企業の持つ陸上養殖システムの実用化 【手順】 システム開発者のアドバイザー招聘→試験事業実施（国の交付金を活用） 【実施体制】 ・福島町(水産アドバイザー)　・協定大学等	
（3）効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	・陸上養殖の技術は概ね確立することが出来た。 ・新たな雇用の場が確保出来た。 ・学校給食への提供により、食育の一助となった。 ・活アワビ及びアワビを使用した商品販売が進められた。	
反省点	・海水取水の安定性に不安が拭えなかった。 ・成長と在庫管理のバランスに苦慮した。 ・成育状況が足踏みにつき、出荷サイズの在庫が確保できず、出荷を停止せざるを得ない状況となった。	
（4）取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	・海水取水の安定性の改善。（漁港整備での関与も重要） ・飼育管理の見直し（給餌サイクルの検討など） ・人件費も含めた生産コストの改善 ・販売の促進 ・種苗の安定的な確保	
取組の実施に必要なもの	・製品開発や販売を主とした人力が必要	

関連資料

【取組の様子】

●地元漁業の次世代への継承

（1）水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）			関連資料
地域MVにおける取組の位置付け	風土と固辞と人材育成	取組場所 	【取組の様子】
現状における取組実施の背景	・町出身者であっても、漁業を営んでいない家庭が増えたことで、地元で行われている漁業の知識や水揚げされる水産物に触れる機会が少ないことから、学習と体験を通して、水産業に関心をもってもらう。		
取組により期待する効果	・水産業に興味を持ってもらい、漁業担い手の育成を図る。 ・擬似的でも漁協体験をすることで、漁獲技術の知識を得てもらう。 ・地元水産物を食べてもらうことで、地域資源の魅力を感じてもらう。		
（2）取組内容・実施体制（Do）			
取組内容、方法、手順、実施体制	【取組内容】 ・福島町の漁業を学ぼう！（小学校5･6学年） ・学校給食へのウニ及びアワビの提供（町内小中学校） ・イカについての食育教室（保育所） 【方法】 ・漁業者から直接漁法などの説明と実演 【実施体制】 ・渡島西部漁業士会 ・町内学校(保育所) ・福島吉岡漁業協同組合 ・福島町		
（3）効果項目に対する評価（Check）			
効果目標の達成度評価	・地元で行われている漁業の説明では、児童が関心を持って聞き入れてくれた。また、実技も楽しんで行われた。 ・地元水産物を食べる機会が出来、魅力を感じてもらうことが出来た。		
反省点	・学校の授業の一環として行うため、時間や内容に制約が生じている。 （コロナ対策にて、漁業教室における調理実習は見送り） ・給食提供魚種も固定化されており、新たな魚種の選定も必要。		
（4）取組の改善措置（Action）			
取組内容の改善点	・漁業、食育教室は、従前の手法に捕らわれず、新しいアイデアでの実施。		
取組の実施に必要なもの	・製品開発や販売を主とした人力が必要		